

100キロマラソンじゃあ〜なる

5239

1984年9月15日第1号発行〜

997-0826 鶴岡市美原町30-24

☎0235(22)3669

090-2986-7724 携帯

2009年11月14日



09.11.09

・大森

30日17時ごろ成田を立つ。Washington DCで乗り換え、NY/JFKには其の日の18時半ごろ到着。ShuttleでLoriのアパートに着いたのは9時を過ぎて居た。

翌日は受付場所の35番通りまで歩いて往復する。他も回ったので10キロ以上の距離であろう。アパートの近所で赤ワインを買って帰る。40ドル程のもので、お土産の代わりだ。其の晩はLori夫妻をGreenwich Villageのレストランに招待の申し入れをしていた。アパートに着いて、大変な事に気が付く。ワインを買った以降クレジットカードを紛失したのである。

店に電話を掛け、其処には無いことを確認する。Visaに電話掛けカードの不能化と再発行の手続きを取る。アメリカのVisaの対応は良く、日本の発行会社がOKすれば2日程で届ける事が可能と言う。何回かVisaの発行元とも電話連絡を取り、最終的には11月3日のCharlestonのホテルで受け取る手筈の確認が取れた。中2日という早い対応であった。

しかし、招待はしているもののレストランで支払う金は持ち合わせていない。コンナに格好の悪いことは滅多に無い。Loriに取り敢えず立て替え払いを頼む。

この日はHalloweenと言う奇妙な行事がある日だ。ケルト民族の文化とキリスト教の其れとが合体したものだと言うが、我々には分かり難い。仮想衣装を纏い町を練り歩き、家々にはグロテスクな飾りつけをする行事だ。オレンジ色のカボチャを割り貫き、ローソクを灯したり、子供たちが箱は缶をもち家々を回り菓子などを貰う日でもある。同じ仮想行列でもカーニバルは陽気であるが、Halloweenはグロテスクで陰気臭い。NYではGreenwichの行列が最も有名で、毎年沢山の人が繰り出すという。食事の席に之も見ようと言うのが今夜の趣向である。

Loriが予約したレストランに着いたのは、カード紛失の後始末に予定以上の時間が掛かり、予定時間を過ぎていた。6差路の角に立つ2階の席からは町の雰囲気が見て取れる。ワインを飲みながら3コースの食事を取る。イタリア料理の店で中々洗練された料理が出た。食事中激しい雨が降り出す。仮装行列も之では台無しであろう。

食事を終える頃には雨は上がり、行列を見に行く。道一杯に色々な仮想衣装を纏った行列が通り過ぎる。子供も沢山居る。仮想はヨーロッパ伝統の幽霊、怪物、魔女、ゾンビ等気味の悪いものが多い。これらの衣装も相当の金を掛けて眺めて居るのであろう。数時間まえある美容院の前を通り掛かると、この日の為に特別な髪型にしている人たちを多く見かけた。

暫く行列を見た後、地下鉄に乗り、帰り足に付く。電車の中は仮想行列に参加した其のまま姿の人で一杯だ。この日だけは無礼講で、特別な日なのであろう。駅や車内で写真を撮っていると、突然行列が動かなくなった。電源を入れても画面は真っ黒なのだ。以前から7つの問題が出ていたが、これで完全に使えなくなったことになる。デジタル機器は意外な脆弱さを持っているのだ。来る前にもノートパソコンが同じような状態と成り、メーカーと遣り取りをし、未解決のまま出てきた。こちらの方が被害は大きい。膨大な量の蓄積データが全く取り出せない可能性があるからだ。

## 09.11.01 NYC Marathon

このマラソンが気に入って居る何人かの友人の影響で、僕も何回か参加応募をしたが、籤運は良くなかった。今回漸く参加OKの連絡を受け取ったのは7月中旬であった。NYを走るなら、自分の家に泊まるとLoriからの誘いもあった。彼女とは2006年10月サハラ砂漠のレースで出会い、その後もアタカマ、ゴビ砂漠のレースで会っている。ボランティアとして参加している医者である。今回もNYC Marathonにも医者としてFinish地点のテントで医療活動の奉仕をする事になっている。昨年結婚した相手のHughも同じテントでスタッフとして働く事になっている。スタッフの仕事はランナーより長時間に及ぶ。

朝7時に3人連れ立って家を出て、Lori夫妻はCentral Parkの医療テント向かい、僕は反対側のBroadwayに向かう。彼女たちの住んで居るアパートはこのマラソン参加には打って付けの場所にある。西82番通りのColumbusとAmsterdam通りの間にあり、Central Parkまでは300m、NY自然史博物館までは400m程である。建物は1930年の完成の6階建てである。砂岩作りの落ち着いた感じの小さな建物には10世帯が住んでいる。

Broadway 81番通から①の地下鉄に乗る。日曜日のこの時間乗っているのはレースに向かう連中が大半である。乗り換えなしでSouth Ferryまで20分ほどで着く。地下鉄を降り、流れに混じってFerry乗り場に向かう。沢山の人が入場を待っている。程なく乗船のゲートが開く。Staten Island行きのFerryは大きく1000人位は乗れるようだ。全員が乗っても未だ空席はあった。20分ほどで到着し、其処からバスでスタート地点に向かう。

3回に分けて走り出す。一回に出て行くランナーの数は15000人を超え、之だけでも最大級のレースに相当する。スタート地点のFort Wadsworthは広大である。上空にはヘリや小型飛行機が何機か飛んでいる。

空は曇りで肌寒い感じがする。雨の可能性は10%というが、気温10度近辺で雨にあえば、可也寒い事が予想され、上下とも長い物を着、ウィンドブレーカーと簡易雨具を着る。最終的な準備の後荷物を預けに行く。UPS(United Parcel Service)の黒茶色の大きなトラックが並んでおり、自分の番号の車両を探し預ける。トラック一台には1000人分の荷物が積まれる。スタート地点の前の集合場所に行く。大変な混雑である。前の出走に間に合わなくて焦っている人も居る。走路に出るのに時間が掛かり、多くの男女が高い塀を乗り越えている。出走前の混乱は大きな大会には付き物だ。チップを付けたレースなので少々遅れてスタートしても体勢には影響ないと思うのだが、皆早く出たくて、興奮している。高い対価を払って海外から着ているので、早く走らせろと息巻いている人も居る。

# 100キロマラソンじゃあ〜なる

# 5240

1984年9月15日第1号発行〜

997-0826 鶴岡市美原町30-24

☎0235(22)3669  
090-2986-7724 携帯

2009年11月14日



此処の大会のChipは変わっている。薄い紙状の物に記録媒体が塗布されて居て、極めて軽量だ。日本のRunnersが代理店をして、年々維持会費を巻き上げているオランダ製のYellow Chip等は早く無くなった方がよい。

漸く遠くの方で号砲が聞こえず少しずつ進み出す。正直の所何処がスタートラインなのか分からず走り出していた。Chipの場合通常計時マットを踏む事により、計時が始まる。今回の計時方式は若干異なり、マットでは無く何か鉄製の物のように思えた。若干高くなっており、幅は50cm程であることがその後分かった。思い出してみると、スタート地点にもその様な物はあった。其処を通過した時の時間は号砲がなって6分後であったと記憶している。5キロごとのSplit time、中間点の通貨時間、Finish Timeは当日の内に分かるように成っていた。

スタート地点は既に橋の袂であり、登り勾配と成っている。上下6車線の高速道路を一杯に使って走るので、スタート地点以降は余り人込みを感じることなく走れる。湾の最狭小部に掛かるVerrazano-Narrows Bridgeの水面上に来ると左手からの風が冷たい。雨除けの合羽を着ていたのは正解であった。水面上にある橋の長さはほぼ1マイル、1.6キロである。高い橋の上からはNew York湾に浮かんでいる船舶が左右に見える。正面はBrooklynで、遠く左奥にはManhattanのビル群が見える。渡り切るとBrooklynである。NY市は5つの独立地域から成り立っており、レースは1976年の7回大会以降これら全ての地域を回るコースで行われて来た。この内Brooklyn内のコースは11.5マイル、マンハッタンは10.5マイル、Staten Islandが1.5マイル、Queensは2マイル、Bronxは1マイル強となっている。高層ビル群が立ち並ぶLower Manhattanはコースには入っていない。

スタートから橋を渡り切るまでは殆ど観客の姿が見えない。Brooklynに入ると大勢の人が道の両側で盛んに応援してくれる。橋を渡って1.5キロほど走路が複雑に曲がっており、狭い。此処は2手に別れ別の道を走らせる事により、混雑を避ける工夫が成されている。4番大通りに出ると、分離帯を挟み上下4車線の広い道を走る。道もほぼ真直ぐで、列の先の方は何キロも彼方に見える。距離表示は1マイルごとと5キロおきにある。空もやや明るくなり、薄っすらと汗をかく様になる。合羽とWindbreakerを脱いで腰に巻き付けて走る。長丁場なので備えは必要なのだ。

沿道は大声での声援やら、生演奏やらで大変な賑わいである。各地域には夫々の特色があり、色々な人種が夫々個性ある町の雰囲気を作り出している。気が付くことは教会が地域の中核となっている点である。其処には特に多くの人々が集まって応援やら音楽の演奏をしていた。10キロは63分程で通過する。8マイル地点で道は右に折れ、Bedford 通りに入る。木立の多い住宅街となり、独特な衣装を纏ったユダヤ人の姿が目につく。彼等も又彼等の宗教施設 Synagogue を中心に集まっている。間もなく川に掛かる小さな橋を渡り、Queens に入る。この橋が中間地点である。橋は都合5つ渡るが、小さな橋は跳ね橋と成って居り、船舶の航行の為定期的に中央部が立ち上がる構造となっている。軽量化のため、この部分は鋼製の網目構造になっており、其のままでは走り難い。この部分にはマットが敷かれて、この不都合の解消を図っている。20キロまでの10キロは70分を超え、中間地点は2時間23分で通過する。15分ほど走り、次の大きな橋 Queensboro Bridge を渡って Manhattan に入る。建設後今年で丁度100年になる大きく立派な橋である。橋の上からは Manhattan の摩天楼群が左手前方に見える。橋詰を左に曲がり Manhattan に入った所は、1番街大通りと Central Park の南の端に当たる59通りの交差点である。此処から北に向かって走る。6車線の大通りが5キロ近く続き、緩やかな起伏があるので遠くを走るランナーの姿を見ることが出来る。残す距離は16キロを切っているが、長い列になる事は無く、道一杯に沢山ランナーが走るさまは壮観である。時間別出走であり、同じ様な走力のランナーの集団なので何時までも団子の状態が保たれるのである。途中スポンジが出ている所があったので、汗を拭く。

周りに走っているのは圧倒的に女性が多い。色々な国の人が走っている。日本人の姿も何人か見た。旅行社の団体で来ている様だ。車椅子人、その他の障害を持ったランナーも伴走者の手厚い援助を受けながら走っていた。中には更に早い時間にスタートした人も居るようだ。給水所はほぼ3キロ毎にあるが、この天候では全部立ち寄る必要はない。給水所は道の両側にあり、多くの所では手渡してくれる。容器はスポーツ飲料メーカーの紙コップでリサイクル可能との触れ込みであるが、路上はグシャグシャになったコップが散乱している。リサイクルはパルプ状にしてから行うので、足で踏みつけるのも省エネ的観点から良いのかもしれないが、果たしてその様な観点から路上でパルプを作っているのであろうか？視覚的には決して美しくは見えない。適当なゴミ入れの設置とランナーのマナー改善により、もっと美しく走れることを考えるべきであろう。

30キロ手前には唯一エネルギーの補給場所がある。小さな袋に入った練り物である。4つほど手に取り、歩きながら飲み込む。朝飯からは5時間が経っているので、腹は減っている。東ハーレムを通り、ハーレム川に掛かる橋を渡り、Bonx に入る。ここは道も曲がっており、道路の凸凹も多く走り難い。幸いにもこの地区の距離は短く、再び別の橋を渡り大きく左に曲がって又 Manhattan に入る。残る距離は5マイル、3キロ余りである。30キロまでの10キロは75分を掛けて居るので、余裕は残っている。後は全力で走るだけだ。少し早く走るだけで、面白いほど周りの人が後ろに下がっていく。5番街、通称 Museum Avenue に入り、2キロほど走り、90通りで右に入り、Central Park 内を2キロ余り走る。公園の南の外れで、再び公道、59通りを走る。残す距離は1.5キロと成る。Central Park の南西の外れで再び公園に入る。残す距離は500メートル程で若干起伏はあるが、全力で走る。最後の10キロは67分で走ることが出来た。